

特別じゃなくても、ありふれていても

明晩まどか

「アイドル」

それは

女の子達の永遠の憧れ

だがアイドルの頂点に立てるのは

ただ、一組……

あなたは「アイドルマスター」をご存知だろうか。アイドルマスター(以下、アイマス)とは、プロデューサーとして個性豊かなアイドルをプロデュースし、アイドルの頂に導く物語である。ゲームの他にアニメやコミカライズ、娯楽施設や自治体等とのコラボレーションなど、コンテンツの幅は広い。

二十年の歴史を持つアイマスシリーズだが、今回はその中でもアイドルマスターシャイニーカラーズ(以下、シャニマス)に登場する、「七草にちか」というアイドルについて語りたい。

七草にちか

気が強く甘え上手な「みんなの妹」

アイドルに強い憧れを抱いており、譲れない思いや負けず嫌いな面を覗かせることも。高校一年生。

(アイドルマスターシャイニーカラーズ 公式サイトより)

七草にちかは203プロダクション(シャニマス世界におけるアイドル事務所)の事務員、七草はづきの妹である。2021年7月26日からプロデュース可能となった。七草にちかは緋田美琴とSEHSとして活動している。SEHSの曲調はK-POPを意識していると考えられ、ダンスでファンを魅了することに重きを置いている。SEHSのパフォーマンスについては、アイドルマスターシャイニーカラーズ ソングフォープリズムにて見ることのできるMVをご覧ください(筆者は「Fashionable」をお勧めしたい)。

さて、公式サイトでの紹介文にもある通り、七草にちかはアイドルに対して強い憧れを抱いている。その中でも、「八雲なみ」というアイドルを敬愛しており、曲を聴き込んだりダンスをコピーしたりと熱心である。

そんな七草にちかはどのようにして2003プロダクションに加入したのか？ それは「売り込み」である。ゲーム内のプロデュースシナリオ「W.I.N.G.」にて、自身のアルバイト先であるCDショップを訪れたプロデューサーをバックヤードに連れ込み、

「大声を出しますよ」などと脅してオーディションへの切符を掴み取ったことがわかる。やり方はかなり強引だが、無事オーディションに合格する。研修生として2003プロダクションへの所属が決まった七草にちかは、屋上でその喜びを叫んでいた。

七草にちかはアイドルとして「平凡」であり、素人・コピートの域を出ない——というのがプロデューサーが下した評価である。七草にちかもそれを自覚しており、自身をひたすら追い込むようになってしまふ。

「自分に合った靴を履くのではなく、履く靴に自分を合わせるべき」

七草にちかは八雲なみがインタビューで語ったと言う、上記の言葉を大切に行っているが、それはさながら呪いである。

「誰が見てくれるんですか、私のことなんか………」

「なみちゃんと同じ靴で踊らなきゃ ライトなんて当たるわけないって………」

八雲なみと同じシューズを履いて、心身をすり減らして踊り続ける。その姿は痛ましく、しかし美しい。アイドルはキラキラしたものとして描かれることが多いが、七草にちかを通してその裏側を見ることが出来る。身を削ることでもよく光る。まさに原石のような彼女は、アイドルそのものではないだろうか。また、アイドルは生まれつき特別な「才能」「容貌」「魅力」を持っているものとして描かれることが多い。例えば同作品の芹沢あさひや浅倉透は、ただならぬ才能とカリスマ性を備えるアイドルとして描かれている。それは真実なのだろうか？

アイドルを志す全ての人が、特別な何かを持っているとは限らない。七草にちかはそんなアイドルの現実を、等身大で表現してくれる。七草にちかはもがき、足掻き、掴み取るまでの過程を丁寧に行く。彼女が成長してゆく姿は、「困難に立ち向かい続ける人」全てに勇気を与えることだろう。

アイドルではない七草にちかも、魅力あふれる人物である。七草にちかとその姉、七草はづきは二人で暮らしている。父は幼少期に他界しており、母は入院中である。アパートに住んでおり、七草にちかは家事全般を担当する。それゆえ料理がうまい。プロデューサーに「お弁当食べます？ 作ってきたん

ですけど」と声をかけたり、緋田美琴にお手製のちみつレモンを差し入れるシーンがある。また、スーパの特売情報も熟知している。「夜よこの窓は塗らないデ」七草にちか」のコミュにて、プロデューサーと共に特売の卵を買うシーンがあり、儉約家であることが見て取れる。

アルバイト先の〇〇ショップでは「につちー」と呼ばれ、先輩達に可愛がられている。高校一年生にして人間関係を円滑に進める術を身につけており、荒波の中でも懸命に生きる姿に感動する。

しかし、七草にちかとプロデューサーの関係は良いとは言えない。大抵のアイドルは自分を教え導くプロデューサーに惹かれ、憧れる。同作品の杜野凛世、大崎甘奈などのプロデューズシナリオ・コミュを読むとわかりやすいだろう。七草にちかはプロデューサーに対して一貫して皮肉的な態度を貫く。プロデューサーの言うことなすことにいちやもんをつけたがってしまう七草にちかと、それに頭を悩ませながらも向き合うことを諦めないプロデューサー。その姿はさながら親子のようである。七草にちかはその家庭環境により、父性が足りていない。それゆえに、プロデューサーを試すような、反抗的な態度を取ってしまうのだろう。それが微笑ましくもあり、悲しくもある。そんな七草にちかの強気で反抗

的な態度の裏側には、自信の無さが関係していると考ええる。時折見せる弱い部分から、彼女の本質が見えてくる。

「予言してください……うまくいくって」

「言ってください 可愛いって」

上記のセリフは、≡I.N.G.準決勝前にて七草にちかがプロデューサーに言い放つものである。自分自信が無いため、うまくいくことを強く願う、他者からの評価で自身を塗り固める。自己評価は空っぽなままで、祝福の皮を被った呪いを纏う。自分のじやない、なみちゃん靴を履いて。

「にちかは幸せになるんだ」

「俺に、そのための仕事をさせてくれ」(プロデューズシナリオ「W.I.N.G.」より)

七草にちかはどうしたら笑顔になるだろうか。いつか、何の不安もなくステージに立てるようになるだろうか。七草にちかが283プロダクションに加入してから、4年が経とうとしている。その間に公開されたプロデューズコミュ、イベントコミュ、今年一月二日、12日に立川ステージガーデンにて開催された283 Production LIVE Performance

[liminal:marginal:eternal]等では、七草にちかの

成長が大いに描かれている。

プロデュースコミュでは七草にちかとプロデューサーの関係性が少しずつ変わっており、互いに余裕が生まれつつある。イベントコミュでは、緋田美琴との距離が縮み、手を取り合えるようになっていく。そして283 Production LIVE Performance

[liminal;marginal;eternal]では、体調不良で退場した緋田美琴の分までステージで歌い、踊りきった。筆者は全々公演を配信で視聴した。SHI'sによる圧巻のパフォーマンスだけでなく、七草にちかのソロ曲「フェアリー・ガール」も披露されている。また、コメテイツクの斑鳩ルカとの関係気になる方はイベントコミュ「モノラル・ダイアローグス」等を読んでいただけるとよいだろう。も多少改善が見られていた。七草にちかは少しずつではあるが、確実に前に進んでいる。彼女の努力と根性の賜物だろう。

もちろん、七草にちかが心身をすり減らして壊れてしまうことはあつてはならないことである。時にはプロデューサーとして厳しく対応することも必要であろう。だが、彼女がアイドルにかける想いは本物であり、侵してはならない聖域でもある。彼女だって、無茶なスケジューリングでは壊れてしまうことを知っている。それでも彼女は自分のために、

SHI'sのために、八雲なみに追いついて、その先へ進むために、踊ることを諦めない。私は、そんな彼女の今後を見守り、誰かに愛され、自分を愛せるようになるまで、彼女の背中を押し続けたい。

今回はプロデュースシナリオ「W.I.N.G.」での七草にちかを中心に語ったが、「ファン感謝祭」

「G.L.A.D.」「Landing Point」などもぜひ読んでいただきたい。また、現在WEBにて連載中の「アイドルマスターシャイニーカラーズ 事務的光空記録」も合わせてお楽しみいただきたい。同作品では八雲なみについても触れられている。

最後になるが、283プロダクションには、七草にちか以外にも様々なアイドルがいる。そして、全員があなたのプロデュースを待っている(筆者は七草にちかの他に、櫻木真乃、幽谷霧子、福丸小糸も担当している)。みなさんがアイドルマスターシャイニーカラーズ及び、アイドルマスターシリーズで運命の出会いを果たせることを切に願っている。